

体験！発見！ジオパーク(防災学習編)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、青少年のチャレンジ精神、社会性、創造性を育むとともに、大地の誕生や生命の営みについての興味・関心を高める。

○ 実施期間

令和2年10月3日（土）～令和2年10月4日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4年生から6年生までの児童 17名／20名

○ 活動プログラム

10/3（土）	10/4（日）
9:30 はりまや橋観光バスターミナル発	6:00 起床
12:00 室戸世界ジオパークセンター着	7:30 朝食（食堂）
12:10 昼食（弁当）	8:30 室戸岬探検（岬探勝）
12:50 開講式	講師：高橋 唯氏
13:00 室戸世界ジオパークセンター見学	11:00 室戸岬探検・続編
14:30 入所式、オリエンテーション	「付加体実験キット作成」
15:00 避難所運営ゲーム「HUG」（体育館）	（ジオパークセンター）
16:40 避難所体験プログラム①（研修室1）	12:00 昼食（弁当）
17:30 夕食(食堂)	12:40 ふり返り、閉講式
19:00 避難所体験プログラム②	13:30 ジオパークセンター発
（プレイルーム、研修室3）	高知市内送り
21:00 就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

室戸世界ジオパークセンターにて今回の防災学習がスタートした。室戸ジオパーク推進協議会地質専門員の高橋唯氏に南海トラフ地震の話をしていただき、地震の起こる仕組みなどを学んだ。地震や防災に関する問題をプロジェクターを使いながらクイズ形式で出してくれたため、子供たちは楽しく学習することができた。波と津波の違いやタンポポが非常食になることなどに驚いていた。その後、ジオパークセンターの見学をし、防災学習に対して知りたいことや疑問点を浮き彫りにすることで、これからの活動に対して、主体的に関わっていこうとする意欲を高めることができた。

室戸青少年自然の家に着いてから、3つの班に分かれて避難所運営ゲーム「HUG」を体験した。体育館を避難所として、色々な人の部屋割りを考えたり、次々に起こるミッション（イベン

ト)にどう対応していくか子供たちは大人顔負けのアイデアを出し合ったりすることができた。避難所運営ゲームの定番である様々な背景を持つ方々への対応として、ご高齢の方や赤ちゃん、体の不自由な方への配慮をしっかりと考えることができていた。

夕方からは新聞でスリッパや枕などの防災グッズを作ったり、ダンボールで自分の寝場所を作ったりした。

夜は、お風呂に入れない体験として濡れタオルで体を拭き、レスキューシートに身を包んで自作の寝場所で寝た。非日常的な生活にも対応している子供たちの姿にたくましさを感じた一日だった。



<2日目>

2日目は、博士（高橋唯氏）の案内で室戸岬探検に行った。

子供たちは、不思議な形をしたアコウの木や 2000 万年前の海底にあった、しましまの地層（タービダイト）を目の前で見て、自然の不思議さやパワーに驚いていた。班対抗で水切り大会を行うなど楽しんだ。石の投げ方が分からない子供も少なくなかったが、どの子供も興味津々で、投げ方を教えてあげるとコツをつかみ歓声をあげながら次々と海に投げ込んでいた。

次に、グループで話し合いながら地図を頼りに津波避難場所を目指し、避難体験を行った。最初、間違った方向に進むグループもいたが、国道沿いに展示されている地図も参考にしながら自分たちの力だけで避難場所に辿り着くことができた。

その後、ジオパークセンターで付加体キットを作った。付加体とは、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む時に、海洋プレートの上の堆積物がはぎ取られ、陸側に付加したものである。フェルトや木材、金具を接着剤でくっつけて、付加体が形成される様子が分かる実験キットを作った。友だちにやり方を教えてあげている子供もいた。

最後の子供たちからの感想発表では、「防災のことで知ったことを家に帰ってやってみよう。」と言った子供もいた。ただ分かった楽しかったという言葉ではなく、そういった感想が出てきたことがとても嬉しく思えた。子供たちは2日間の体験を通して、自然の怖さや尊さを知るとともに、いずれ来る南海トラフ地震への備えを自分のこととして考えることができたのではないかと考える。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ダンボールの家作りがとっても楽しかったです。
- ・クイズやゲームとかができて、協力もできて楽しかった。
- ・「HUG」がおもしろかった！また来たいと思いました。
- ・私は新聞紙で色々な物が作れることが分かりました。なので、防災グッズの中に新聞紙を入れようと思いました。
- ・防災グッズの作り方が分かってよかった。ダンボールで寝床を作れて、それで寝たのが楽しかった。
- ・色々な所へ行って、防災や津波のことが学べてよかったです。また来ます。
- ・今度は友だちとも来てみたい。
- ・防災の学習をして、何かあった時にどういことをすればいいのかを学習することができたのでよかったです。

○ 事業の成果

- ・室戸ジオパーク推進協議会地質専門員の高橋唯氏から南海トラフ地震の話や室戸岬の案内をしていただいたことで、地震の起こる仕組みや室戸の自然、防災についての理解が深まった。また、プロジェクターを使いながらクイズ形式で問題を出したり、班で協力して課題を解決させたりすることで、子供たちは楽しく学習することができた。
- ・避難所運営ゲーム「HUG」や避難所体験を通して、日頃から防災に備えることが重要であることを考えることができた。また、避難生活では自分のことだけを考えるのではなく、みんなで協力することの大切さや素晴らしさを感じることができた。

○ 事業の課題

- ・今回の事業は、衣食住の住にテーマを置いて活動を行った。住に関しては子供たちの感想からも分かるように、自分で自分の寝る場所を作ることが貴重な体験となったと考えるが、衣食住のテーマがここで完結したことにより、それぞれの実践の成果をこれからどのように結び付けていくのか、整理して考えていきたい。